ゴールドGマーク認定事業所特集

安全対策は「運送事業者の絶対的使命」
Gマークの維持をモチベーションに安全教育を徹底

重大事故がもたらした意識改革　「安全会」を通じ事故防止に真摯に向き合う

貨物自動車運送事業安全性評価事業（Gマーク制度）では、2023年度から、6回目の更新を迎える事業所を「長期安全認定事業所」として認定しています。同事業所として認定されると、「ゴールドGマーク」を使用することができます。同事業所は、20年もの長きにわたって安全運行の実績を積み上げ、安心・安全な輸送サービスを提供する模範として、高く評価されます。

『広報とらっく』では、同事業所を訪問し、ゴールドGマーク認定取得に至るまでの長年にわたる事故防止対策等を紹介します。今回は、静岡県浜松市の浜松運送㈱（村松正巳代表取締役社長）本社営業所を紹介します。

浜松運送株式会社　本社営業所（静岡県浜松市）

村松　正巳
代表取締役社長

浜松運送㈱は、自動車部品や住宅設備、天然調味料などの輸送のほか、海上コンテナ輸送を扱っている運送事業者である。

本社営業所が初めてGマークを取得したのは、全国貨物自動車運送適正化事業実施機関（全日本トラック協会）によるGマーク制度が始まった平成15年のことである。

同社では、自動車部品や住宅設備、天然調味料などの輸送を手がけている

重大事故が　事故防止対策強化の契機に

同社では、Gマーク取得後も事故防止対策を進めてきていたが、Gマーク取得から3年後となる18年、別の営業所のドライバーが事故を惹起した。この事故が、同社が事故防止対策を一層強化する大きな契機になったという。

18年7月、同ドライバーが運転する大型トレーラが、交差点を右折する際に十分な減速や安全確認を行わないまま通過したため、車両がバランスを崩して横転。歩道で信号待ちをしていた女性がコンテナの下敷きになり、死亡した。

「当時、専務取締役だった私は、父親である先代社長とともに被害者のご自宅にお詫びに伺いましたが、ご家族からは厳しい叱責の言葉を頂戴しました。かけがえのない大切な方を奪われたご家族の憤りは、今も決して忘れることができません。一方で、当該ドライバーは事故を引き起こしたことがきっかけで仕事ができなくなり、家族の生活も成り立たなくなりました。当時の会社の不十分な安全教育が事故惹起の一因と捉え、運送事業者としては、『ドライバーが、日々安全運行に努めることで、道路を利用する全ての人々を幸せにすることができる。さらには、当社で働くドライバーにも、日々幸せを感じながら働き続けてもらいたい』と考え、事故以降、ドライバーに対する安全教育を徹底しています」（村松社長）

従業員の意識を大きく変えた「安全会」　工夫を凝らしながら安全の重要性を伝える

同社では同事故を受けて、従業員の事故防止意識の高揚を図るために、毎月「安全会」を開催している。

安全会は、本社営業所のほか、浜松北、掛川、袋井、清水の各営業所単位で行っているミーティングで、毎月1回、月末にドライバーや倉庫担当者などを集めて実施している。

安全会では冒頭、同社の使命や経営理念、基本方針について、全員で唱和を行う。

その後は、直近の課題に対応した資料を基に進めていくが、同資料は毎月村松社長が作成しているという。

「安全会で使用する説明資料は、毎月私が作成しています。また、本社営業所に関しては毎回私が進行役を務め、従業員に直接説明するようにしています。18年の事故以前は、先代社長が作成した簡単なマニュアルはありましたが、現在のようなきめ細かな資料はなく、定例の安全会もありませんでした。毎月説明資料を作成することで、タイムリーな話題を従業員に提供することができます。例えば、今年3月には東日本大震災から15年の節目を迎えたことで、『災害について考える』と題して、防災意識高揚のための啓発動画を視聴したほか、災害などの緊急時における対応などについて取り上げました。また、『春の全国交通安全運動』の周知徹底を図ったほか、4月1日に施行された改正道路交通法を取り上げ、自動車の自転車保護義務強化（自転車右側面との接触事故防止）などを紹介しました」（同）

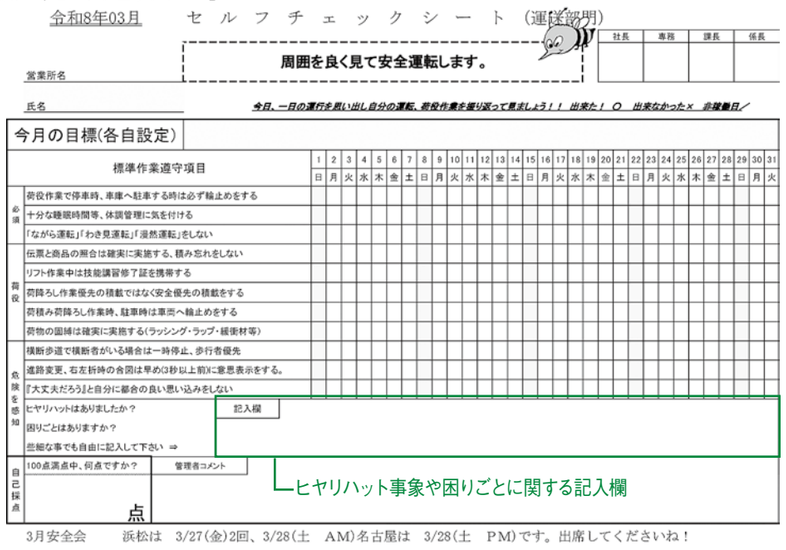
「安全会」では冒頭、同社の使命や経営理念などを全員で唱和する

図1　「安全会」で共有される事故報告書

図2　同社オリジナルの「トラック輸送に伴う安全基準書」（抜粋）

■自主点検 ・自主点検に不明な点がある場合は整備管理者の指導、指示を受け作業すること。 ・工具や用具に故障や破損、異常や紛失が発生した場合、速やかに整備管理者へ報告すること。 ■整備・修繕・修理 ・故障個所や不調の場合、速やかに車両整備管理者へ連絡して指示に従って修理すること。 ・整備工場発行の整備点検記録簿は速やかに整備管理者へ提出すること。	
■その他 ・車内、外装共に常に整理・整頓・清掃・清潔に心がけ会社から渡された時の標準状態を維持し無断で改造しないこと。 ・荷主や商品などの状況により必要な改造をする場合は整備管理者に連絡し必要な処置を施すこと。 ・タイヤチェーン・スタッドレスタイヤなど季節に応じた準備をしておくこと。	

図3　「セルフチェックシート」



「安全会」では、村松社長が自ら作成した資料を用いて、事故の未然防止を図っている

今後も事故防止への取り組みを積み重ね　「Gマーク」の高い安全性を維持し続ける

同社本社営業所では、Gマーク事業所としての長年にわたる事故防止への取り組みが実を結び、令和5（2023）年度に長期安全認定事業所としての認定を受け、「ゴールドGマーク」を手にすることができた。

「当社としては、平成18年の事故を機に、運送事業者の絶対的使命である『事故防止』に真摯に向き合い、安全性向上に取り組み続けてきました。『ゴールドGマーク』事業所になることができたのも、当社における運送事業者として不断の取り組みが評価いただけたと考えております。当社としては、『安全会を通じて事故を共有する』、『事故防止対策を従業員みんなで考え、実行していく』、『事故を起こした人を責めない』、『起こしてしまった事故は決して隠さない』――ということを大切にしながら、今後も引き続き事故防止への取り組みを積み重ね、『ゴールドGマーク』にふさわしい事業所であり続けたいと考えています」（同）

（取材協力）浜松運送㈱　村松正巳代表取締役社長、鈴木久登本社営業所所長

ズを10問出題し、知識の定着を図っている。

続いて、KYT（危険予知トレーニング）シートを用いたトレーニングを実施。KYTは、事故を他人ごとではなく自身を含め誰もが遭遇する可能性がある「自分ごと」として捉えてもらうために、従業員に意見を求めながら進めるようにしている。

さらに、ドライバーを対象に、同社オリジナルの「トラック輸送に伴う安全基準書」（図2）の読み合わせを行う。

この安全基準書は、管理職などを対象に2か月に1回開催している安全衛生委員会のメンバーが作成したものである。

安全基準書では、トラックドライバーとしての心構えや車両の点検・整備の方法、トラックの構造と特性に合わせた運転操作など、トラック輸送を担うドライバーにとって基本的かつ重要な内容について取りまとめている。また、写真や図、イラストなどを多用し、ドライバーにとって分かりやすくする工夫も図っている。安全会で毎月安全基準書の読み合わせを行い、ドライバーに安全基準書の内容を再確認させることで、運行中のトラブルの未然防止を図っている。

安全会の開催当初は、真剣に受講しない従業員も少なくなかったが、事故防止の重要性を繰り返し訴え続けてきたことが功を奏し、安全会に積極的に参加し、発言する従業員が徐々に増えてきたという。

「安全会の開催を通じて、従業員の事故防止への意識が大きく変わってきたと感じています。一方で、安全会の進め方についてはまだまだ改善の余地があると考えており、今後も常に工夫しながら、従業員のさらなる意識改革に結び付けたいと考えています」（同）

なお、同社では安全会とは別に、年1回、外部講師を招き、同社の全営業所に所属する従業員を集めての「全体安全会」も実施している。

併せて、同社では毎月1回の安全会の内容をフォローアップする形で、「セルフチェックシート」（図3）を導入している。

これは、ドライバーがそれぞれ毎月1か月間の目標を立て、月ごとに定められた標準作業遵守項目について○×形式で毎日セルフチェックし、安全性向上に繋げるものである。また、同シートには、事故報告書には出現しないヒヤリハット事象や困りごとに関する記入欄が設けられており、その内容を管理者が確認することで、ドライバーからの意見の吸い上げ効果も期待できるという。

なお、管理者は同シートの内容を確認後、コメントを記載してドライバーに返却するようにしている。

「ドライバーや倉庫担当者が事故を起こした際に管理者として気を付けていることは、『決して事故惹起者を責めない』ことです。事故惹起者を責めてしまうと、万が一次に事故を起こした時に隠ぺいしかねません。そうなると、重大事故の芽を摘むことができなくなってしまいます。安全会を通じて、同じような事故を未然に防ぐための方策を従業員全員で検討し、それを実行に移していくことで、安全性の底上げに繋げることができるのです」（同）

事故事例の共有に引き続き、全ト協『事業用トラックドライバー研修テキスト』をもとに静岡県トラック協会（佐野寛会長）が作成したYouTube動画を従業員全員で視聴。その後、同動画の内容について○×クイ

会社概要

浜松運送（株）
［代表取締役社長　村松　正巳］

本社営業所	静岡県浜松市中央区下石田町1053
設　立	昭和22年10月
従業員数	96人（本社営業所　58人）
ドライバー数	25人（　同　12人）
車両数	105台